



香川大学

# 香川大学医学部附属病院 腫瘍内科・がんセンター



## 腫瘍内科：主な専門診療分野

- がんの集学的治療（特に標準的がん薬物療法及び、新規薬剤等の治験/臨床試験）
- 緩和医療/支持療法
- セカンドオピニオン など

## 診療案内・特徴

### 1、腫瘍内科について

がんは本邦の死因の第1位の疾患であり、国民の生命や健康を守る上で重大な問題となっています。2007年には「がん対策基本法」が制定され、特定機能病院においても、がん専門の医療スタッフの育成、がん拠点病院との連携による治療水準の向上、診療科を超えたチーム医療、患者さんへの情報公開、がん登録が求められています。

腫瘍内科は2016年4月に新たに設立され、①分子標的治療を含むがん薬物療法を中心とした臓器横断的腫瘍学の研究と診療の提供、②がん薬物療法を中心とした他診療科との連携、③基礎研究、臨床研究による新しい抗がん剤や癌治療の開発、④**臨床力に優れる、熱い心を持った腫瘍内科医の教育法の確立**などを目標に、診療や研究、教育を行っています。

### 2、診療内容・業務内容

#### 1) 受診に当たって

悪性腫瘍の診断、治療方針決定、セカンドオピニオン、化学療法の施行、緩和的治療の説明、新規抗がん剤の臨床試験・治験の実施、紹介元/地域医療機関との緊密な医療連携などを行っています。

患者ご本人だけでなく家族の方に対しても、病状や今後の治療方針などについて十分に説明をさせていただき、十分ご納得いただいた後に治療を行うようにしています。このため受診される際には、是非ご家族皆様と御一緒に来院していただくことをおすすめしております。

化学療法を導入した後は、当院外来または地域の連携医療機関で治療を継続してゆきます。そして今までの生活を可能な限り、続けてゆけるように心がけています。

又、当院では漢方薬による支持療法も積極的に取り入れています。

当科には4名のがん薬物療法専門医が在籍しており、さらには各分野の専門医、がん専門看護師、がん専門薬剤師と協働し、安全で快適な外来化学療法の実施に努めております。

加えて、以前は大都市圏の専門病院でしか受けられなかった新規抗がん剤の臨床試験や、未承認薬剤の開発治験（承認前の試験）なども、希望のある患者さんにはご紹介できますし、条件があれば治療を受けられる場合も多くあります。ご本人さん、ご家族さんが希望される場合には説明させていただいております。この際ご家族さんにもお話を聞いていただくようになりますので、是非ご家族とご一緒に受診いただきますようお願いいたします。

#### 2) 研究・教育について

新規抗がん剤や新たな併用化学療法の開発は、腫瘍学の発展に欠かせません。当科では、これらの基礎研究、臨床研究にも力を入れています。

前述のような新薬開発、未承認薬などの臨床導入も日本での中核施設として研究、開発にあたっています。

また、腫瘍学と緩和医療学の融合を推進し、緩和ケアチームと協働しながら院内外の医療従事者への緩和腫瘍学の普及・啓発を行っています。

さらに医学部教育においては、講義や臨床実習を通して、臨床腫瘍学の基礎やがん診療につき指導し、香川県のみならず、中四国、近畿圏のがん専門医育成につとめております。

### 3) 専門教育・情報発信について

最適ながん医療を提供するために、手術、放射線、化学療法、病理、緩和医療の各専門医によるカンサーボード（腫瘍会議）を設け、最適な治療方針を患者さんに提示します。また、各種のがん相談やセカンドオピニオンに応じ、治療成績の公表やがん医療情報の発信などを行います。さらに、臨床研究や基礎研究を強力に押し進め、中四国地域の医療機関と連携し、中国四国広域がんプロ養成コンソーシアムの中核大学として、がん薬物療法専門医やがん領域での医学博士あるいはがん専門看護師、薬剤師など医療スタッフの育成に努めております。

## 3、お問い合わせ

新規抗がん剤治験や臨床試験についてのお問い合わせは

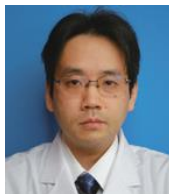
メール：[ccc@med.kagawa-u.ac.jp](mailto:ccc@med.kagawa-u.ac.jp)

または Tel: 087-891-2081 までお願いします。

## 医師紹介



職名 科長（臨床腫瘍学・教授兼任）  
氏名 辻 晃仁（つじ あきひと）  
専門分野 臨床腫瘍学、がんの集学的治療、新薬の臨床開発、がんの医療連携、外来化学療法、緩和医療  
専門医等資格 総合内科専門医、認定内科医、内科学会指導医、がん薬物療法専門医・指導医、がん治療認定医機構がん治療認定医、消化器病学会専門医・指導医、支部評議員、消化器内視鏡学会専門医・指導医、肝臓学会専門医・指導医、老年医学会専門医・指導医、超音波医学会専門医、日本肉腫学会認定指導医・肉腫専門医



職名 講師  
氏名 西内 崇将（にしうち たかまさ）  
専門分野 臨床腫瘍学、東洋医学、がんの集学的治療  
専門医等資格 総合内科専門医・指導医、がん薬物療法専門医・指導医、血液専門医、漢方専門医・指導医、がん治療認定医機構がん治療認定医、抗がん化学療法認定医・指導医、臨床検査管理医、日本肉腫学会認定肉腫認定医



職名 講師  
氏名 奥山 浩之（おくやま ひろゆき）  
専門分野 臨床腫瘍学、がんの集学的治療  
専門医等資格 認定内科医、がん薬物療法専門医・指導医、総合内科専門医、消化器病専門医、日本肉腫学会認定肉腫専門医



職名 学内講師  
氏名 大北 仁裕（おおきた よしひろ）  
専門分野 臨床腫瘍学、がんの集学的治療  
専門医等資格 外科専門医、がん治療認定医機構がん治療認定医、がん薬物療法専門医・指導医、日本肉腫学会認定指導医・肉腫専門医



職名 病院助教  
氏名 村上 あきつ（むらかみ あきつ）  
専門分野 麻酔科学、臨床腫瘍学、固形がんの集学的治療、緩和医療、疼痛管理  
専門医等資格 麻酔科専門医、麻酔科認定医、麻酔科標榜医、緩和医療認定医



職名 医員  
氏名 羽床 琴音（はづか ことね）  
専門分野 臨床腫瘍学、がんの集学的治療  
専門医等資格



- がんの集学的治療（特に標準的がん薬物療法及び、新規薬剤等の治験/臨床試験）
- 緩和医療/支持療法
- セカンドオピニオン など

## 診療案内・特徴

### 1、がんセンターについて

がんセンターは、がん治療において関連専門診療科による連携のもと、集学的がん医療を行うとともに、地域の医療機関と連携して、がん診療の標準化、質の向上に寄与することを目的として2007年4月1日に設立されました。2007年19年に「がん対策基本法」が制定され、特定機能病院(大学病院)においても、がん専門の医療スタッフの育成、がん拠点病院との連携による治療水準の向上、診療科を超えたチーム医療、患者さんへの情報公開、がん登録が求められています。香川大学医学部附属病院では、これを機会にがんセンターを開設し、香川県におけるがん診療の拠点病院として、また中国四国がんコンソーシアムの一員として地域の医療機関と連携するとともに、腫瘍学の研究及び教育に関連した病院機能の拡充を図っていきます。

がんセンターの業務には、がんの集学的治療(手術・抗がん剤・放射線治療など)の実施、診療科間のがん診療連携の企画・運営、がん治療に係る医療機関等との連携、がん予防・診療についての研修及び啓発活動、がん患者登録、がん治療成績の公表、緩和ケアの推進であり、その実践のため、キャンサーボード(腫瘍会議)と以下の12の部門、がん化学療法プロトコール審査部門、外来化学療法部門、がん診療地域連携部門、がん登録部門、緩和ケアセンター、がん診療相談部門、がん教育研修部門、がん臨床研究部門、ゲノム診療部門、がん放射線治療部門、がん検診・診断部門、小児・AYA世代がん患者支援部門から成り立っています。

### 2、診療内容・業務内容

#### 1) 受診に当たって

悪性腫瘍の診断、治療方針決定、セカンド・オピニオン、化学療法の施行、緩和的治療の説明、新規抗がん剤臨床試験(治験)の紹介・実施、紹介元/地域医療機関との医療連携などを行います。

インフォームド・コンセント(十分な説明の上での同意)に基づく治療を行います。患者さんご本人に十分理解、納得して頂いた上で治療を行っています。最初に受診される場合は、ご本人だけではなく、可能な限りのご家族と一緒に来院されることをお勧めします。

化学療法を導入した後は、当院外来もしくは地域の連携医療機関で治療を継続していきます。可能な限りのご家族と一緒に来院されることをお勧めいたします。

化学療法を導入した後は、当院外来もしくは地域の連携医療機関で治療を継続していきます。可能な限り今までの生活が続けられるように心がけています。また、各分野の専門医、がん専門看護師、がん化学療法認定看護師、がん専門薬剤師と協働し、安全で快適な外来化学療法の実施に努めております。



## 2) 外来化学療法について

ベッド20床に対して化学療法専門医が従属勤務し、がん化学療法認定看護師を含む3~4名の看護師が専任体制でケアにあたっています。高度で安全な治療を提供できる環境整備、異常の早期発見、副作用の観察や症状緩和、精神的苦痛の軽減、在宅セルフケアの維持・向上を目標に看護を行っています。又、漢方薬による支持療法も積極的に取り入れています。

## 3) 臨床試験について

臨床試験として、新薬の治験、新しい併用化学療法などの研究的治療にも取り組んでいます。希望のある患者さんは治験や臨床試験に参加することで、新たな治療法を先取りし選択できる場合もありますので、治療説明の前に希望される方にはお話しさせていただいております。

さらに、大学医学部の使命である新たな医療機器や新規抗がん剤などの最先端医療技術の開発も行っております。他施設とも連携して幅広く臨床応用の可能な技術開発を研究対象としています。そして、その中から現代の地域医療事情に貢献可能と考えられる知見・技術などに関して基礎研究も含めた横断的・集約的な橋渡し研究や、独自の治療方法の開発などにも取り組んでおります。

## 4) 専門教育・情報発信について

がん患者さんにとって最適ながん医療を提供するために手術、放射線、化学療法および緩和医療の各専門医による共通のキャンサーボード(腫瘍会議)を設け、最適な治療方針を患者さんに提示します。また、各種のがん相談やセカンド・オピニオンに応じ、治療成績の公表や、がん医療情報の発信などを行います。さらに、臨床研究や基礎研究を強力に推し進め、中国四国地域の医療機関と連携し(コンソーシアム)、がん専門医あるいはがん専門看護師、医学物理士、がん専門薬剤師など医療スタッフの育成に努めます。

## 5) 小児・AYA世代がん患者支援について

小児・AYA世代がん患者支援部門は、院内外のがん患者及びその家族並びに医療機関等に対し、生殖医療、メンタルサポートを行うことを目的として2020年5月1日に設置されました。小児期および高校から大学、若年成人や子育て世代では、それぞれの年齢特性から、就学、就職、結婚、出産などライフイベントによる社会的な問題が治療に影響を及ぼします。

当部門では、情報収集や情報提供、がん患者の療養上の相談や就学や就労など、各世代を考慮した問題に関する専門分野と連携し、患者や家族が安心して適切な医療や支援を受けられるような環境の整備を目指し、地域の病院との連携を含めた医療や支援を行います。



## 6) がんゲノム医療センター

がんゲノム医療は、がん遺伝子パネル検査を用いてがん細胞の遺伝子の変化を調べ、個々の患者さんのがんの治療に役立つ情報を得ることを目的としています。

当院は、2019年9月19日付けで厚生労働大臣より「がんゲノム医療拠点病院」に指定され、「がん遺伝子パネル検査」を実施しています。

「がん遺伝子パネル検査」でがん細胞の遺伝子の変化を調べることで、どのような薬剤が効きやすいかということを知ることがあります。この結果を参考にして、治療効果が期待できる薬剤や、参加できる可能性がある臨床試験・治験の有無を含め最適な治療法を検討します。

また、これらの結果をもとに、将来的に採取したがん細胞の遺伝子情報を解析し、そこからがんの原因となる遺伝子異常を発見すると、それに適応する薬を投与する、という Precision Medicine(プレジジョン・メディシン「精密医療」)につなげることを目的としています。

遺伝性腫瘍の可能性が判明することで出現する遺伝に関する悩みや、精神的な負担に対して、「遺伝カウンセリング」も行っています。

## 3、お問い合わせ

がんセンターの業務についてのお問い合わせは

メール：[ccc@med.kagawa-u.ac.jp](mailto:ccc@med.kagawa-u.ac.jp)

または Tel: 087-891-2081 までお願いします。

